科目ナンバリング	U-LAS01 10006 LJ38						
授業科目名<英訳>	東洋史II Oriental History II			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 城地　孝		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

黎貴惇『北使通録』を読む―清代ベトナム朝貢の具体像―
ここ二十年ほどのあいだに東アジアの国際関係をめぐる研究は大きな進展をとげました。明清時代（1368～/～1911）の中国が周辺諸国と関係を取り結ぶ際の制度であった朝貢についても、新たな史実の発掘とともに、それらを包括するような構造的な理解をめざす方向へと研究が展開しつつあります。
そうしたなか、15世紀以降、中国への朝貢を続けたベトナムにおいて、朝貢を行うにあたって具体的にいかなる動きがあったかということについては、必ずしも十分に問われてきたわけではありません。
ベトナム黎朝（1428-1527・1533-1798）後期随一の文人とも言われる黎貴惇（1726-1784）は、副使として参加した1761年の朝貢にかかわる記録を『北使通録』としてまとめました。この書物には、朝貢に関連する黎朝側の行政文書を多数抄録するなど、他書にはないきわめて高い史料的価値を認めることができます。
この講義では『北使通録』の具体的な記述を読み解きながら、清代ベトナム朝貢をめぐる諸相を具体的に検討していきます。

[到達目標]

中国と周辺諸国との関係史に関する理解を深めるとともに、みずからとは異なる歴史・社会・文化について考える視座を養うこと。
史料にもとづいて議論を構築する歴史学の視座・手法を学ぶこと。

[授業計画と内容]

イントロダクション（第1回）
1. 黎貴惇『北使通録』とその時代（第2回～第3回）
2. 清との事前交渉（第4回～第6回）
3. 朝貢使節派遣にかかる負担（第7回～第9回）
4. 中国国内での移動（第10回・第11回）
5. ベトナム使節の文廟視察：中国からの冠服授与をめぐって（第12回～第14回）
期末試験（試験日に行う予定）
フィードバック（第15回）

[履修要件]

特になし

東洋史II(2)へ続く↓↓↓

東洋史II(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（20%）：毎回，講義の最後にコメントペーパーを記入・提出してもらい，その内容を評価します。出席は評価対象としません。
期末試験（80%）：筆記試験を行います。講義でふれた知識および講義内容をふまえた各自の考察度を問う論述問題を出す予定です。
詳細は初回の講義の際に説明します。

[教科書]

使用しない
配布資料にしたがって授業を進めます。詳細は初回授業で説明します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布資料に記載する形で参考文献を紹介します。講義の前提となる基礎事項を知りたい，あるいは講義内容についてより突っ込んで勉強したいという場合には，さしあたりそれらを手がかりに勉強を進めてください。

[その他（オフィスアワー等）]

担当者への連絡は、各種システムからメッセージを送る形でお願いします。

[主要授業科目（学部・学科名）]